

スポット ライト

大東市で「歌う市会議員」として7期28年、日本共産党市議を務めた千秋昌弘さん(69)が、市在住だが、念願のソロコンサートを26日(日)、東成区民センター大ホールで開きます。胃がんなど2度の手術を経て12月23日で古希を迎える千秋さん。ゆっくりと温めてきた自分の曲をテノールで歌いあげます。

幼い頃から、母親が歌う古い民謡などを聞いて育ちました。父は戦後すぐに亡くなり、一家7人、食べていくのが精いっぱい。6人きょうだいの末っ子だった千秋さんも、さみしさを歌で紛らわせる日々。他人のことなどみている余裕はありませんでした。転機は1962年、日本のおたごえ祭典でした。「会場に響くおばちゃんたちの声が心に響いたんですよ。みんな

平和と明日への希望歌声に

愛と平和を歌って 50年・人生70年 千秋昌弘テノールソロコンサート



千秋さん
2011年6月

26日(日)午後2時、
東成区民センター大ホール

仲間」と歌っている。人生観が変わりました(千秋さん)。

以来、関西合唱団に入団し、大阪府立大学でうたごえサークルを創設。大阪歌舞団若駒の団員やヒグチ薬局経営、市会議員と肩書は変わっても、うたごえの道を歩み続けてきました。

現在も、男声合唱団「昂」団長をはじめ、関西紫金草合唱団、コール大東などで活動する

他、各集会でのソロ活動も展開。歌への思いは人一倍で、胃がんの手術1カ月後には日本のうたごえ祭典で沖繩へ飛び、金賞を受賞。近藤民主市政時代に、全国紫金草合唱団の北京公演でソロを努めるため、議会開会日を延期してもらった程。

コンサートでは、大阪民謡「淀川三十石舟歌」、荒木栄作曲「わが母の歌(詩・森田ヤエ子)など日本歌曲の他、シューベルトの「魔王」、フッチーニの「だれも寝てはならぬ」など新曲にも挑戦。自ら「愛と平和の歌い人」と言う通り、「さとうきび畑」にんげんをかえせ「アメイジング・グレイス」なども選曲。合唱朗読構成「紫金草物語」をはじめ、荒木栄「地底のうた」などは、「昂」や紫金草合唱団と共に歌いあげます。

「この50年、歌を通じて多くの人と出会い、交流し、成長してきました。好きでやっていることですが、閉塞感があるいま、歌で平和の輪が広がり、明日への希望がわくような、心に届くコンサートにしたいと思っています(千秋さん)。

2時開演(開場は1時半)。会場へは、地下鉄今里駅②出口左へ徒歩約2分。親子室あり。入場整理券1500円、子ども・学生・障害者とその付添・東日本大震災被災者800円。問い合わせは、090・9270・2971コンサート実行委員会・本並美徳さん。